

# 令和5年度学校自己評価システムシート ( 県立春日部高等学校 定時制の課程 )

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと学び合う学校
--------	---

重点目標	1 安心安全・・・生徒一人ひとりの基本的な生活習慣を身に付けさせ、安心安全な教育環境を確立する。 2 個別最適化学習・・・授業の個別最適化を目指して「わかる授業」を実践する。 3 キャリア教育・・・自立した社会人となるように、規範意識と自己管理能力を育成する。 4 情報発信・・・学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 1 月 2 5 日 現 在 )		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 1 月 2 5 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】不登校経験者、高校の中途退学者、健康上配慮を要する者、外国籍の生徒など多種多様な生徒が在籍しており、個々の実態に応じた指導が必要である。</p> <p>【課題】基本的な生活習慣を身に付けさせ、自らを律する力をつけることで安定した高校生活に送れるよう支援していく必要がある。</p>	<p>○学業不振による転学や中途退学を減少させる。</p> <p>○生徒の安易な欠席を減らし、出席状況を改善する。</p>	<p>○個々の生徒に関する情報共有の機会と内容を充実させる。 ○拠点校としてのSSWの積極的活用と教職員との密接な連携 ○家庭、福祉との連携 ○中学校との情報共有及び連携</p> <p>○登校時の声掛け指導 ○校内巡回指導 ○出席状況の把握と迅速な対応</p>	<p>○学業不振による進路変更や中途退学が前年度より減少したか。</p> <p>○生徒の出席状況が改善したか。</p>	<p>○一月末現在の転退学者は12名で、前年度同比で5名増加した。中途退学者は11名であり前年度同比で10名増加した。</p> <p>○二学期末(12月末)で81%の出席率であり、昨年度(84%)に比べて微減している。</p>	B	<p>○学校への登校の習慣化が学業継続の鍵となっている。ICTを活用しつつ、課題を抱えている生徒に対し、個別最適化の教育を実施している。引き続き、生徒の状況に応じた個別支援に努めてまいりたい。</p>
2	<p>【現状】落ち着いた学習環境の中で授業にきちんと参加する生徒が多いが、一方で学習面での個別の支援が必要とされる。</p> <p>【課題】生徒の個性を踏まえて、学習内容を確実に定着させる授業の展開が必要である。外国籍生徒への日本語の支援も不可欠である。</p>	<p>○生徒の個性に応じた授業を展開し、意欲を喚起する。</p> <p>○外部指導者等との連携を密にして、個々の生徒に興味、関心、能力に応じた授業を行う。</p>	<p>○公開授業や教員相互の授業見学による授業改善 ○「総合的な探究の時間」の改善 ○授業アンケートの年内実施 ○授業におけるICTの活用</p> <p>○個別最適化を促進する指導(習熟度別、TTなど)の充実 ○外部指導者(多文化共生推進員、学習サポーターなど)の活用</p>	<p>○授業が理解できているという趣旨の回答がアンケート等で把握できるか。</p> <p>○生徒の授業に対する最適化が図られ、成績不振者が減少したか。</p>	<p>○授業アンケートを12月(二学期末)に実施した。例えば「授業を受けて興味があったか」という問いに、79%~97%の生徒が「興味があった」「どちらかという深まった」と回答している(国・地歴・数・理・英・体) ○定期考査ごとに生徒の学習状況・出席状況を共有し個別最適化や指導の改善に繋げている。</p> <p>○学習サポーター、日本語支援員、習熟度別授業(英、数)が連携して支援の必要な生徒のニーズに十分応えている。</p>	A	<p>○授業アンケートに関しては、おおむね肯定的な評価を生徒から得ている。今回は常勤教員の授業を評価の対象としたが、次年度は非常勤講師を含めた全教科を対象を拡大したい。</p> <p>○授業アンケートにおいても、肯定的な評価が多くを占めており、支援が必要な生徒に対しても授業内での支援が進み、内容の理解が進んでいることがわかる。</p>
3	<p>【現状】学校斡旋の就職では比較的スムーズに進路決定ができていますが、安易な進学、就職の決定を行っている生徒も少なからず存在する。</p> <p>【課題】適切な職業観を育て、安易な進路選択をしないように指導していく必要がある。特別な支援を必要とする生徒への支援体制を整備していく必要がある。</p>	<p>○個々の生徒の状況に応じて、自己決定力を身に付けさせ、より良い進路決定に導く。</p>	<p>○進路講演会、ソーシャルスキルトレーニングの実施 ○進路指導における「総合的な探究の時間」の活用 ○「在り方生き方教育」、 「人権教育」の推進 ○特別支援コーディネーター間の連携を利用した進路指導の充実</p>	<p>○進路決定の状況が向上したか ○特別な支援を必要とする生徒の進路決定が図られたか。</p>	<p>○学校斡旋の就職者は80%が進路を決定することができた。サポートステーションやスクールソーシャルワーカーの協力で支援の必要な生徒に対しても配慮した指導を行えるようになった。 ○4年生以外の学年にも体験的な進路指導を行うことができた。</p>	A	<p>○スクールソーシャルワーカーなど支援のスタッフの協力を得ることができた。次年度はサポートステーションとの連携を強化してまいりたい。 ○4年生以外にもより体験的な進路学習を展開してまいりたい。</p>
4	<p>【現状】「学びなおしの場」としての本校定時制のイメージが定着しつつある。</p> <p>【課題】本校の教育活動を外部に積極的にPRするとともに、最新の情報を定期的、継続的に行っていく必要がある。</p>	<p>○中学校、学習支援の各機関、児童相談所、教育相談の各機関との連携を充実させる。</p>	<p>○3学期に学校説明会を行う。 ○個別の学校見学を積極的に行い、安易な受検にならないように丁寧な情報提供を行う。 ○特に教育相談機関、児童相談所との連携に努める。 ○週1回以上のHPの更新に努める。</p>	<p>○本校の教育を理解したうえで、志願する生徒が増えたか。</p>	<p>・学校のホームページを42回更新(12月15日現在)することができ、学校の教育活動を知らしめる一助となった。 ・学び直しの学校イメージが定着し、個別学校見学も35件(1月末現在)となっている。 ・1月に2回行われた「イブニング学校説明会」は合計で20組(生徒・保護者等)の参加があり、生徒会の協力も得られて、事後アンケートでも肯定的評価が高かった。 ・中学校卒業生進路状況調査では希望者が12月15日現在で29名であった。(0.36倍・前年度同比0.36倍)</p>	A	<p>○生徒会部などの協力でホームページを通じて学校生活を学校内外に知らしめることができた。 ・個別学校見学は一年を通じて希望者があり、また、イブニング学校説明会は電子願の機能(ミライコンパス)を利用することで入試業務そのものにも役立てることができた。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年1月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○特にありませんでした。	
○特にありませんでした。	
○特にありませんでした。	
○個別最適化学習の言及の中で学習サポーターの質問があった。学習サポーターとはどのような経歴の方々なのか。どの教科に何名ぐらいの方がかかわっているのかという質問の回答として、学習サポーターの方々は大学生であり、本校との過去からの関係性から特定の大学の学生の協力が得られている。特に数学と情報の授業に参加しており、大学の行事等(教育実習など)によって増減があるが、3、4名の学生が常時かかわっていると説明した。	
○特にありませんでした。	